

総 会 宣 言

私たちは、本日、第5回定期総会を開催し「安心・信頼の社会保障制度の確立で生き生きと安心して暮らせる社会にしよう！」をスローガンに活動を展開することを確認した。

今、我が国は、一つの政権によって平和、自由、権利が危機に直面している。安倍政権は、多くの危険性をもつ「安全保障関連法」を国民に十分な説明も行わず強引に成立させ、民主主義・立憲主義を無視した国会運営を行ってきた。

退職者連合は、この様な状況の中で2016年7月10日実施の第24回参議院議員選挙は、「政治の流れを変える闘い」と位置づけ組織をあげて取り組みを進めた。社会保障制度をはじめ拡大する格差と貧困の問題、安倍政権が目論む憲法改正の是非をめぐる問題など国民の関心は高まっていた。野党4党は全国一人区の選挙区で統一候補を擁立し闘った。しかし、自公与党は、選挙の争点である憲法問題には一切触れず経済問題を選挙にすり替え、その上、野党の統一候補について「野合」と、なりふり構わず批判を繰り返した。自公の争点隠しによって有権者の多くが選挙への関心が削がれ全国の投票率は54、7%に留まった。

選挙結果は、退職者連合と連合が推薦した候補者12名のうち8名の当選に終わり、野党共闘の32選挙区でも11人の当選に留まった。徳島県選挙区は今回、高知県との合区選挙となった。退職者連合は、電話戦術を中心に取り組んできた。選挙は残念ながら推薦候補の当選には至らなかったが野党統一の選挙戦が展開されたことは今後の国政選挙に明るい展望も期待される。

一方、高齢者の生活の基礎となる「社会保障制度」について政府は、一層厳しい対応を迫っている。「骨太2015」では「社会保障費の伸びを向こう3年間、毎年5千億円以内に抑える」としている。

労働者に対しても雇用・労働法制を改悪し、非正規労働者・低賃金労働者を激増させ大企業優先の国造りに邁進している。

徳島県退職者連合南部地域協議会は、徳島県退職者連合と緊密に連動し、本日の総会で「平和憲法を守り、恒久平和の実現」に向けて取り組み、さらに、「社会保障制度の改革、改善に向けた政策・制度要求」を県下で進め、あわせて「組織の拡大・強化」をはかり「平和で豊かな福祉社会実現」に向けて力強く前進することをここに宣言する。

2016年12月21日

徳島県退職者連合南部地域協議会第5回定期総会